

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 1月 27日

事業所名 放課後等デイサービス コンシェルジェ帯江

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			定期的に構造を見直している。	
	2 職員の配置数は適切である	2		4	・基準配置は満たしているが、土曜日のスタッフが限定されるので調整をしている。 ・ギリギリの時間がある。その為に整理が遅れることがある。	来年度はパートスタッフが1名常勤になる予定。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2		4	玄関にスロープは設置されているが室内にはない。	全体の建物の構造上バリアフリー化は難しい部分がある。
適切な支援の提供	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			子ども一人一人の個別支援計画を中心に必ずMTでディスカッションしながら取り組んでいる。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			アンケートをもとに積極的に取り組んでいるものとして、茶話会と保護者勉強会を年2回開催、ホームページラインへ定期的に行事等の活動をあげている。	毎年、保護者アンケート結果から何が必要か改善すべき点をスタッフで話し合いながら取り組んでいく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している				毎年、ホームページに自己評価と保護者評価を掲載している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			第三者委員会を設置している。	令和7年度も未来図大野氏によるコンサルを受け、支援スキル向上を図る。今年度、ソーシャルストーリーの研修が受けられなかったため、来年度は受講を計画する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			未来図大野氏のコンサルを年4回受けている。大野氏と話し合いながらスタッフのスキル向上に努めている。今年度は水野氏のトレゼミに参加した。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			アセスメントを継続的に行い、子どもの気づきや課題、その時に上がったニーズを優先順位をいれて計画している。	モニタリングの期間については、チームで話し合って検討する。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			水野氏のフレームワークを基本に日々支援を進めている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			計画的に般化を考えた設定をしている。	
12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			その年度の子どもの発達に合わせて設定している。		
13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している				年間で行事活動を計画している。社会性の規模に応じた組み合わせや内容等を話し合って決めている。		
14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			・個々の特性や気づき方等に合わせた個別と集団活動を設定している。 ・グループディスカッションで意見を出す練習や相手の気持ちの違い等を行っている。		
15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			セッション前に必ず打ち合わせをしている。		
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		3	・観察されて気づいたことを少し話す時もあるが詳しくはミーティングで共有している。 ・職員間で打ち合わせをする時間がない時は 管理者に伝えようとしている。 ・時間がなくてできないことが多い。		
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			少し気になったこと、気づいたことなど記録に残し次に生かせるようにしている。		
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			常に支援計画を中心にスタッフでディスカッションをしている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6			全てではないが基本している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		管理者と担当者2名が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		・保護者からそれぞれ学校の年間行事をもらいコピーして活用している。 ・送迎時間については、保護者や学童等に事前に確認をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			非該当	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6		・必要に応じて訪問し、情報をいただいている。 ・幼稚園、保育園へ直接の聞き取りはできていないが、母や児童発達支援からは情報をいただいている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	コンサルの大野氏や水野氏に助言をいただいている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6	コンシェでは、設定する機会は行っていない。 地域イベントなどでお家での計画をしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	1	放デイ部会の不登校支援について情報提供をした。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・とても意識している。 ・セッション内容や新たにアがってきたニーズに対してアセスメントをしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6		・実際にお子さんの様子を見ていただきお子さんの特性からうまくいく方法等をお伝えしている。 ・家庭訪問へ行き伝えている。 ・保護者の状況を考慮して、なるべく寄り添いながら伝えるようにしている。	療育など日常保護者とお話しする事は意識している。また、勉強会を通してご自身のお子さんの特性や気づきをすることでお母さんたちと同じ方向を向いて支援ができると感じている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時やその他、変更の際には書面で丁寧にお伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		お迎え時に15分程度のお話をしている。必要に応じて家庭訪問や事業所内での面談やメール相談を行っている。家庭訪問へ行くこともある。	家庭との協働の為にも保護者とお話は重要視している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		・保護者が孤立していないか？愚痴を言える場所や人が保護者会をすることによって繋がってほしいと思う。 ・茶話会、勉強会を開催している。	お子さんの特性や発達年齢にあったグループ設定で、ディスカッションしやすい工夫を考えたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		苦情解決責任者と担当者を決めて体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		ホームページラインに毎月3つほど発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6		勤務先では話題にならないように個人情報には気をつけている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		教えた指示をコンシェファイルに入れてお渡ししたり、アセスメント用紙を見ていただき、本人の気づきから教える方向性等を保護者と共有している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	それぞれのマニュアルを保護者が観覧できるようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年2回設定。法人で設置。スタッフで適切に対応できるように周知している。 ・毎年2回避難訓練を行っている。子供たちにも、災害について教える。 	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		身体拘束及び虐待委員会を法人全体で行ないその後、放デイスタッフで適切に対応できるように全員に周知している。	虐待チェックリストを活用してスタッフ全員の周知を図る。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		現在、身体拘束を必要とする方はいませんが、重要事項に記載し、契約時に説明をしている。支援計画にも記載をしている。保護者にも承諾を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的のアレルギー表の見直しをしている。 ・保護者にも了承を得て、おやつ提供は無し等、個別に対応している。 	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			